

6) 産婦人科におけるフィブリン接着剤の応用

須藤 寛人・安田 雅弘 (長岡赤十字病院)
八幡 剛喜・安達 茂実 (産婦人科)

私達は不妊症患者の手術、とくに卵管のマイクロサージャリーにあたり、内性器における(再)癒着を防止する観点より、腹膜片移植術を応用してきた。今回の発表では、1982年4月より1990年4月までに、私達が行った腹膜片移植施行例について検討した。

本法が卵管のマイクロサージャリー時に行われた例は10例であった。卵管周囲癒着の剝離部と卵管間質部・峽部吻合時の漿膜欠損部へ移植された。この10例のうち、初期の3例は8-0ナイロン糸を用いる縫合法によったが、以降の7例は生体接着剤であるペリプラストP®が使用された。

本法は、妊孕性を保持したい若年者の子宮内膜症性の卵巣のう腫摘出術時に3例使用され、子宮筋腫核出時に5例応用された。これらにはすべて生体接着剤が使用された。本剤を用いることは、縫合法に比し、簡便で短時間で進行する利点をもつことは明らかなことであった。

卵管のマイクロサージャリーに応用した10例のうち、3例にその後の妊娠成立・分娩をみた。このうちの1例が帝王切開になったが、癒着は全く生じていなかった。

腹膜片移植の(再)癒着防止効果は、多数例において、腹腔鏡検査によって確認されたとする日本大学の長田らの報告があるが、生体接着剤は本手技を容易に行えるものとした点が強調できると思われた。

7) 膀胱、代用膀胱手術におけるペリプラストPの使用経験

片山 靖士・武田 正之
西山 勉・高橋 等
鳥居 哲・郷 秀人
波田野彰彦・片桐 明善
筒井 寿基・狩野 健一
佐藤昭太郎 (新潟大学泌尿器科)

膀胱、腸管を用いた代用膀胱手術において、縫合補強の目的でペリプラストPを使用した。

対象は、腎盂尿管腫瘍2例、膀胱腫瘍3例、前立腺腫瘍1例。腎盂尿管腫瘍では、腎尿管全摘術、膀胱部分切除術後の膀胱縫合部に、膀胱腫瘍の1例は膀胱全摘術、回腸導管造設術の尿管回腸吻合部に、残りの3例は膀胱全摘術、MAINZ パウチ造設術後の尿もれに対し、MAINZ パウチ修復縫合部に、ペリプラストPを混合法にて使用し、尿もれを指標として評価した。膀胱部分切除後の1例はITPで大量ステロイド投与しており、術後3週間目に多少の尿もれがあったためやや有効と評価したが、その他の5例では尿もれはなく有効であった。本剤による明らかな副作用はなかった。

II. 特別講演

「乳児開心術と低体温」

近畿大学医学部心臓外科学教授

城谷 均 先生